

Hello! FUJISEI

No.209

支出を抑えながらも不時の出費に備えて貯蓄や保険で準備！……毎月の家計のやりくりは大変です。

総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成25年平均結果速報（二人以上の世帯）」によると、二人以上の世帯の1世帯当たり平均貯蓄現在高（平均値）は1739万円で、前年に比べ4.9%の増加でした。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値（金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値）は1023万円（前年1001万円）となりました。

平均値（1739万円）を下回る世帯が68.0%（前年67.2%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏ったものとなっています。

勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合51.3%）についてみると、貯蓄現在高の平均値は1244万円で前年に比べ11万円、0.9%の増加となり、中央値は735万円（前年757万円）でした。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、中央値共に低く

1世帯当たりの貯蓄現在高

平均1739万円だが、2/3の世帯は下回る

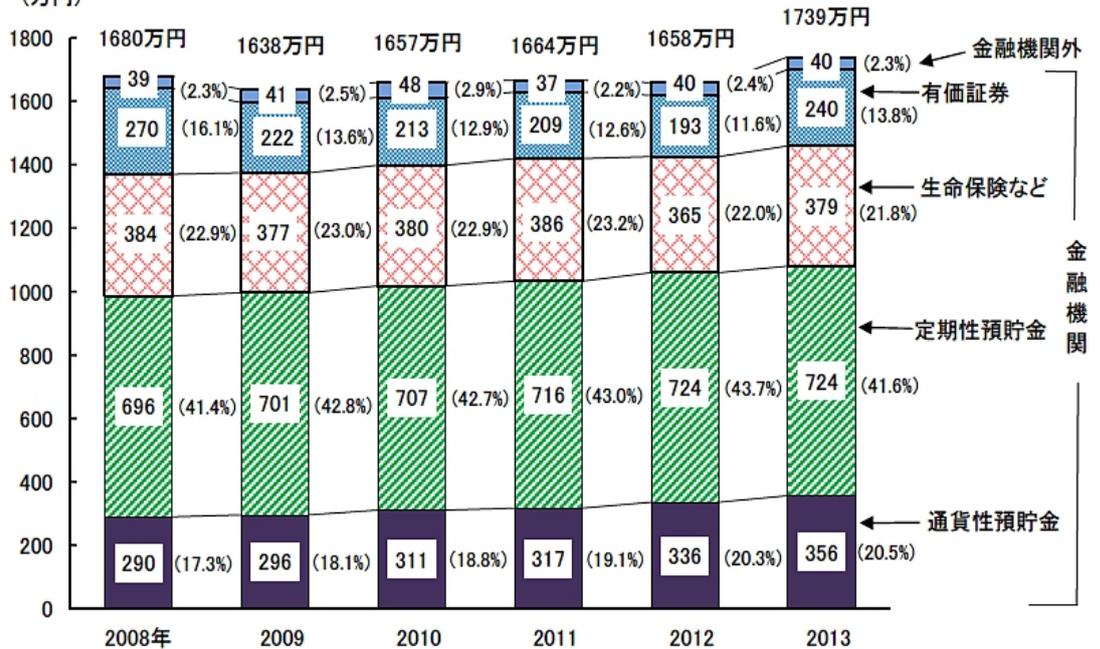
なっています。また、年間収入は708万円で前年に比べ17万円、2.5%の増加となり、貯蓄年収比は175.7%で前年に比べ2.7ポイントの低下でした。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が724万円（貯蓄現在高に占める割合41.6%）と最も多く、次いで生命保険などが379万円（同21.8%）、通貨性預貯金が356万円（同20.5%）、有価証券が240万円（同13.8%）、金融機関外が40万円（同2.3%）となっています。

前年と比べると、定期性預貯金は、

二人以上の世帯では同水準となっていますが、勤労者世帯では減少となっています。「生命保険など」は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加しました。通貨性預貯金は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加となり、特に勤労者世帯は調査を開始した2002年以降11年連続の増加となっています。有価証券は、アベノミクスにより株高が進んだことなどから、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加となっており、特に二人以上の世帯は24.4%と大幅に増加となっています。

貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



(注) () 内は、貯蓄現在高に占める割合

総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成25年平均結果速報（二人以上の世帯）」